

令和6年度 陽北中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- (1) 基本目標
- ・ 自ら考え、主体的に学ぶ生徒
 - ・ 活気に満ちた、たくましい生徒
 - ・ 心豊かで、思いやりのある生徒
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
校訓「聡く 強く 美しく そして、陽北中生としての誇りをもつ」を体現できる生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

社会に貢献できる人間を育成するため、生徒一人一人の自らの良さや身に付けた力に気付かせ、自己有用感を高め学校を楽しく居がいのある場としたい。そして、それらを伸ばしていく指導のもとに、確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む教育活動の充実を図る。さらに、人とのつながりの中で互いに支え合い、人に役立つことの意義が理解できる生徒を育成する。

本校の古きよき伝統と校風を守り発展させ、保護者や地域の信頼と期待に応えることにより、生徒が陽北中学校に学ぶことを誇りに感じる学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導において、教師間で授業を見せ合う機会を増やし、授業実践を通じた指導力の向上に努める。また、教材やICTを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善を図る。
- (2) 生徒の自主的・自治的に活動できる場面を積極的に取り入れ、安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成に努め、一人一人の個性の伸長を図るとともに、協働して課題に取り組む態度を養う。
- (3) ○道徳教育において、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的、多角的に考え、自己の生き方や人間としての生き方について考えを深めることができるよう道徳の時間の充実を図り、すべての教育活動をとらして道徳的実践力の育成に努める。
- (4) 生徒指導において、生徒一人一人の人格を尊重し、生徒の自信や自己有用感を高め望ましい行動への意欲付けを図るとともに、生徒のResilience《苦境にもめげずに立ち直る復元力》の向上を図り、豊かな心を育む教育を推進する。
- (5) すべての教育活動に、特別支援教育や教育相談の考え方を生かし、一人一人の生徒の内面や能力・環境等の的確な理解の上に、その教育的ニーズに応える教育の実践に努める。
- (6) ○小中一貫教育と地域学校園の推進に努め、重点化・焦点化した活動を展開する。
- (7) 豊かな心と主体性を育む施設設備等のハード面や、言語環境・掲示環境等のソフト面の整備・充実に努める。
- (8) ○生徒・保護者・地域住民等とのより良い人間関係を構築し、地域の小学校との連携はもとより体験的な活動の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進して人間性や社会性豊かで広い視野に立つ生徒を育成する。
- (9) 学校運営では、「教職員の働き方改革」の視点から、ミドルリーダーを核とした校内組織の活性化を図り、校内業務の精選化・効率化を推進していくとともに、勤務時間を意識した働き方を推進していく。
- (10) 「教職員評価制度」や「学校マネジメントシステム」、「魅力ある学校づくり地域協議会」等を有効に活用しながら、学校と家庭・地域との連携・協力を深め、教職員一人一人が情熱をもち協働して指導する。

【陽北地域学校園教育ビジョン】

「学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園」 ～人と人の豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法規・法令や学習指導要領及び県、市の教育行政の方針等を踏まえる。
- (2) どのように学び、どのような力を身に付けるのか等「社会に開かれた教育課程」を踏まえる。
- (3) 小中一貫教育を推進し、地域学校園で連携した取組を家庭や地域に積極的に発信するなど教育地域とともにある学校づくりの一層の充実を目指す。
- (4) 持続可能な社会の創り手となるよう、生徒が自分のよさや可能性に気づき自己肯定感を高めることができるよう工夫する。
- (5) 生徒の発達段階を考慮し、学習の基盤となる資質・能力や、SDGs等に係る現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成することができるよう、教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営	・ミドルリーダーを核とした組織の活性化とともに、校内業務の精選化・効率化を図る。 ○地域と連携した諸活動の推進
(2) 学習指導	○「学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園」に基づいた教員の授業力向上、並びに家庭・地域と連携した学力向上
(3) 児童生徒指導	・自己有用感を育てる生徒指導と個別支援の充実
(4) 健康（体力・保健・食・安全）（元気アップ教育に係る取組を含む）	○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・各学級の学芸委員会が中心となり、家庭学習の内容を掲示したり、実施の呼びかけをしたり、自主的な学習に取り組ませていく。 ・家庭学習の習慣化と内容の充実を図る指導と啓発を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 生徒の肯定的回答 85%以上	・より積極的に生徒の良さを発見し、認め、賞賛し、自己有用感を育成することに加え、他者への思いやりの心を育成するような指導を行う。 ・道徳での振り返りや日頃の思いやりのある言動の実態などを学級だよりや学年だよりなどを通して保護者や地域に発信していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・全教職員で、学校行事や部活動など、集団や個人の達成目標について、明確な達成目標を立てられるような助言・活動を工夫していく。 ・目標に向けて努力することのすばらしさを全教育活動の中で伝え、目標達成に向けて努力する生徒を認める。		【達成状況】 【次年度の方針】
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上	・保健主事を中心に保健だよりや委員会活動をとおして健康についての啓発を行い、健康に関する自己管理能力を高める。 ・保健安全部主導で、安全教育全般を通して、思考力・判断力・表現力を育成していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・各種学校行事や生徒会活動、学級での係活動等において、生徒が主体となって活躍できる場を積極的に設定する。 ・生徒が自己肯定感をもちながら、互いに認め合える受容的な雰囲気づくりを行う。		【達成状況】 【次年度の方針】

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A6 生徒は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・オールイングリッシュの授業実践 を展開し、コミュニケーション場面を 意図的に設定していくなど、英語科で の言語活動を工夫し、お互いに伝えあ う活動の機会を増やしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A7 児童生徒は、宇都宮の 良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・地域連携教員を中心に地域人材の 活用や地域の教育資源を活用するな ど、取組を工夫する。 ・総合的な学習の時間での宇都宮学 を活用して、地元への関心を高め、教 育活動において地域人材の教育資源 の活用を推進していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・各教科の年間計画を見直し、授業展 開のなかに、端末を活用する場面を意 図的に設定していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 生徒は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・総合的な学習の時間を軸とした教 科横断的な計画を立て、3年間を通し た活動をしていく。 ・全教職員が学校行事やボランティ ア活動をはじめ、生徒の自己有用感が 高められる場面を多く設定していく。 ・現代社会の課題として「持続可能な 社会」について、生徒への投げ掛けを 意図的に行い、主体的に学びに向かえ る学習方法を工夫していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする生徒の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・インクルーシブ教育の視点を意識 し、SC、SCM、MS、養護教諭と の連携を図り、情報共有や互いの報 告、連絡、相談を徹底する。合わせて 合理的配慮についての共通理解や、意 見の交換の場を設ける。 ・かがやきルームについて、効果的な 支援を踏襲・継続し、さらに適切な支 援の充実を図る。 ・教育課程に特別支援教育推進委員 会を位置づけ、年2回の実施をしてい くほか、必要に応じ臨時委員会を開い ていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上	・いじめゼロ強調月間に合わせて、 「学校生活のアンケート」を実施し、 現状を把握するとともに、いじめの早 期発見に努める。 ・生徒会主体のいじめゼロ集会を行 い、いじめゼロ宣言やいじめゼロ標語 募集など、いじめゼロに向けての活動 を行い、生徒の意識向上を図る。 ・取組を学校HPや生徒指導だより などで校外に向けて発信をする機会 を増やし、一層充実していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 教職員は、不登校を生 まない学級経営を行って いる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上	・学年部会、不登校対策委員会を中心 に組織的に取り組む。 ・スタンダードダイアリーの活用を 図り、生徒の良い点や善い行いを賞賛 することで、自己有用感をさらに高め ていく。また生徒の不安なども早期に 発見し、対応することを継続してい く。	【達成状況】 【次年度の方針】

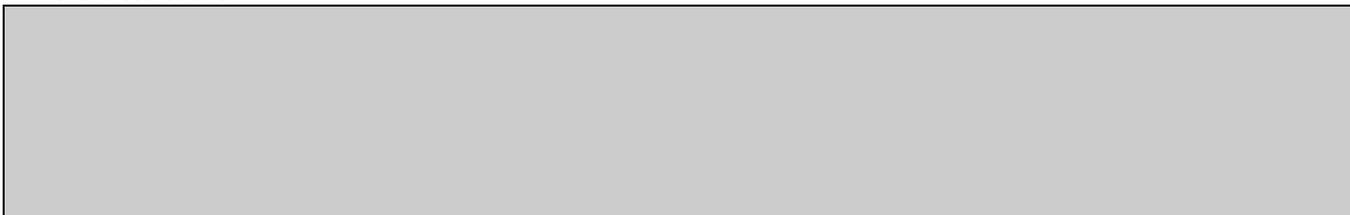
3- (3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。	・学校行事や生徒会活動など、生徒の自発的な活動を教職員が要所で支援し、達成感や充実感を味わわせ、自己有用感を高めていく。 ・生徒を主体とした活動を大切に、生徒の学びの機会を提供していく。 ・生徒の良さへの称賛を陽北 Good job 賞などで行うことで、教職員は常に生徒のよさを見つけ認めて伸ばし、生徒の居がいのある学校づくりを目指す。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化	【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上		
4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。	・教科部会を充実し、授業展開の工夫や端末活用を検討し、授業力向上に努めていく。 ・学校HPや各種たよりを通して、授業の様子や生徒の実態を発信していく。 ・校内授業研究会を充実させることで、教師の授業力を向上させ、生徒の学力向上を図っていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。	・学校経営方針具現化のために、チームとしての具体的な到達目標をいくつか設定する。その実現のために自分は何をすべきかを個々の教職員評価の具体的な目標設定に策定できるようにする。 ・GIGAスクール構想に基づく端末活用を通して、教科や学年、若手ベテランのOJTを一層推進し、相互研鑽の雰囲気を高められるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
4- (3) 学校における 働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。	・退勤時刻宣言や「私の仕事効率化のための工夫」紹介など、個々の勤務時間と仕事効率の意識化を高める工夫をする。 ・ミライムやGIGAスクール構想に基づくICTの活用による業務の効率化や改善を推進するチームを編成し、校内研修など実践する。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。	・小中交流授業を各小学校で実施する。 ・年2回のあいさつ運動など、生徒の自主的な参加を促していく。 ・年2回の小中合同家庭学習強化週間を設ける。 ・小学校6年生の中学校訪問を実施する。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。	・1年「働く人に学ぶ」や2年「社会体験学習」など、地域の職業人や事業所への理解を一層深められるようにする。 ・望ましい職業感の形成や主体的に学ぶ進路学習の実践など、キャリア教育の充実を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進	【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上		
6- (1) 安全で快適 な学校施設 整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。	・安全教育係を中心に、毎月1回の安全点検を組織的に実施する。 ・市会計年度任用職員（学校業務）や機動班と連携を図り、修繕箇所の早期改善に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
	【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上		

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを効果的に活用した授業づくりを推進する。 ・ICT支援員と連携しながら、校内におけるICT環境の整備に努める。 	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部、生活委員会による「あいさつ運動」に参加した生徒に対して「陽北Good job賞」等を用いて、称賛するような働きかけをし、生徒自身が自主的に活発なあいさつができるように育成する。 	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員でできている行動・良い行動を認めるなど生徒の行動を積極的に評価する。 ・場面にあった判断を自分で行っていけるような「自己指導能力」の向上を図り、より一層、きまりやマナーを順守するような態度や思いを醸成する。 	【達成状況】 【次年度の方針】
	B3 生徒は、進んで運動をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、単元に合わせた補強運動を実施しながら、体力の向上を図るとともに、運動に親しむ態度を養う。 	【達成状況】 【次年度の方針】
	B4 学校全体で校訓「聡く 強く 美しく」を共有化し、生徒同士の連帯感を高めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動の指標、伝統を、学校が元気に力強く進んでいくためのスローガンとして、様々な活動や取組において啓発していく。 ・特に、「より主体的な生徒会活動」、「自己指導力育成を図る生徒指導」、「GIGAスクール構想に基づくICT活用能力向上」において、新たな目指す生徒像として校訓を強調し、その実現に向けて意識を高めていけるようにする。 	【達成状況】 【次年度の方針】
	B5 生徒は、校訓「聡く 強く 美しく」のもと、力を合わせて、学校行事をはじめ様々な活動に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動や取組において、「校訓」を本校の伝統、目指す生徒像として実施することを啓発していく。生徒会活動や端末を活用した集会等を実施していく。 ・校内各所への掲示、各種通信など周知を図り、充実させていく。 	【達成状況】 【次年度の方針】

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価



8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

